

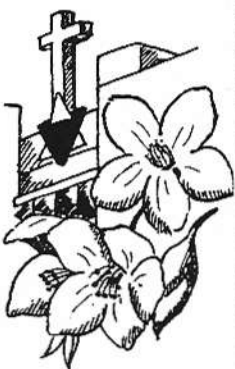
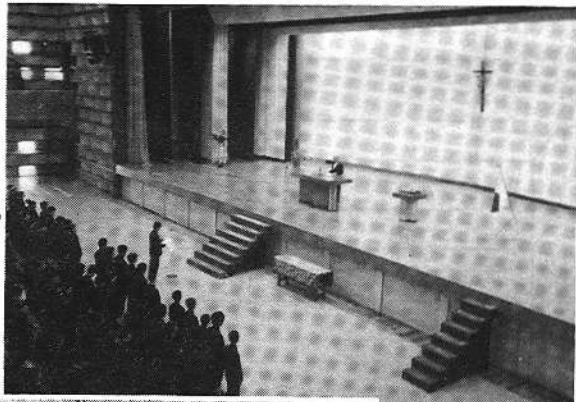
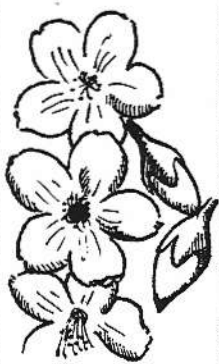
ようこそ 洛星へ



新入生歓迎号

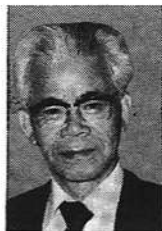
発行
洛星新聞局
京都市北区小松原南町
☎ (463) 3281 (代)
印刷/南片桐軽印刷

去る四月八日、中学及び高校入学式が行われた。約二百六十名の新入生達は、緊張した面持ちであったが、やはり喜びの感情は隠しきれないようであった。彼らを迎え、校内には新たな活気が溢れるであろう。



楽しい学園づくりの工夫を

校長 村田 源次



んに考えて頂きたい、私の言う順応性、適応性は意味のない妥協を言うのではありません。

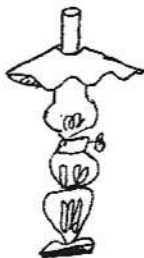
第二は校則を正しく守ることです。校則については色々と論じられている時代です。皆さんが知っているように、校則は目的ではなく、手段です。皆さんが洛星の生徒心得の中の「自由への道」を読まれたら理解できることです。皆さんが、人間生活に必要な小さい掟でも忠実に守ることによって学校は平和なのです。

「平和を作る人々は辛いである」とキリストは申されました。この様に平和は小さい規則を忠実に守ることから始まることを忘れてはなりません。洛星創立の時からうけつがれて来た校風の、静粛、時間厳守、礼儀、美化整頓、公共心を守り、多くの人々に喜びをもたらす勇敢な若人であって下さい。

第三は勉学です。学生の本分は先ず学問の基礎作り而努力することです。教えられる事だけを考えず、自ら学ぶことに努力して下さい。学ばれ、喜びも生まれて来ます。

以上の三点に忠実であることによって実り多い六十年となることを期待しています。

最後にこの一年も平和の年であります様に、全生徒の皆さんの上に神の祝福をお願いいたします。



新しく来られた教職員の方々



事務 福本さん

んです。でも、入ったら先生方や生徒さんも結構明るいのでほっとしました。

洛星は男子校ですが、気おくれみたいなものは？

男の子ばかりだし、先生方も男の人ばかりで事務に女の人がいるくらいでどうしようかなって最初はどう思いました。今はなんとも思わなくなりました。

今、事務ではなにを？

今ですか、今は見習い中なので他の方の仕事のお手伝いなんかをしています。



藤原先生

大学生活の中でゆっくり考えようかと。で大学で遊んでいる内に司法試験は無理だなあ、ということが分かって、とりあえず教育実習を受けたんだと、その時結構おもしろかったというか、仕事としてやり甲斐があるんじゃないか、ということになった。

課外活動に関しては、僕は、それが非常に大事だと思っている。野球部で色々生徒指導みたいな事をしてみたいなと思った事もあって、授業だけやろうという気はなくて、ウチ

から。人徳のあるでできた人、生徒の人格尊重してくれてよかった。年とつたらあんな先生になんたい。



山本先生

洛星にいられてどんな風に感じましたか。

よく読まれる雑誌は、藤子不二雄が好きで藤子不二雄ランド、というのを毎週買っています。

笠 衣

普通は、辞書類との付き合いは小学生あたりから始まるものだろう。語句の意味を国語辞典で引かれたあるいは、漢和辞典を学校へ持って行って、その使い方を教わった、そんな思い出が誰にでもある。

中学生になると、英和・和英辞典、古語辞典も使うようになった。もともと、逆に使わなくなることが多いかもしれない。いちいち引かなくてもなんとかなる。使わない人は使わない。特に目的が無くても、何となく暇な時に取り出してくる。どこかで見た単語で、意味のよくわからなかったものなどを調べているうちに、他の疑問を思いいつたりして、あちこち引き倒すのである。興味をそそられる。探究心が刺激されて、非常に楽しい。

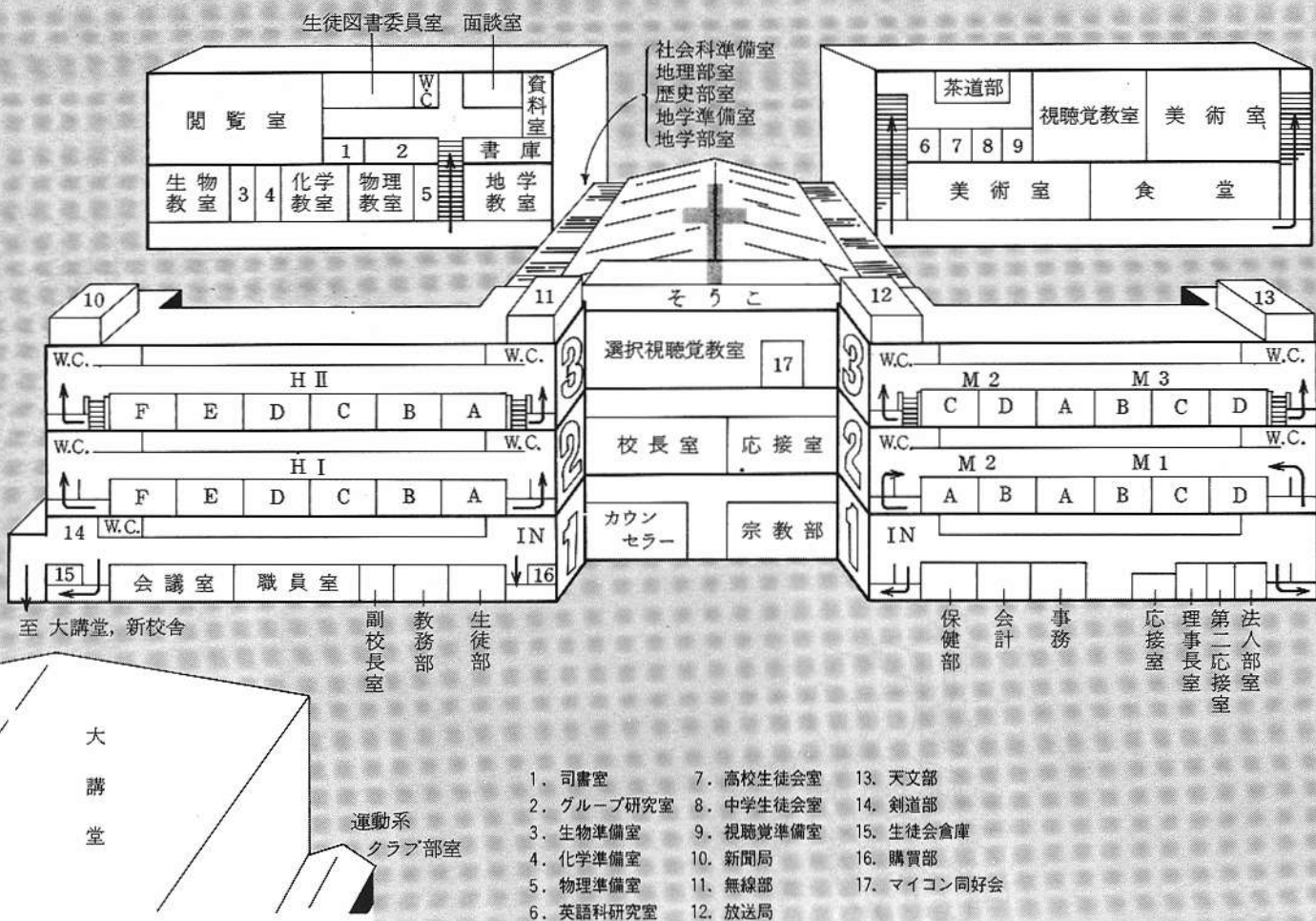
これが役に立つのか、時間をやたら使うだけかは別問題として、この類いのことをするのは、気にする人だろうと思う。どうも気になる。引かずにはいられない。話はここで現代若者論へ飛躍する。私自身もその一端である。若い世代というのは、とにかく鈍感で気にしない。自殺が多発しているが、死の恐怖というものを、はたして気にしているのだろうか。人をいじめても、相手の痛みを知る気になんか、サラサラなれない。政治や国際情勢は異次元の出来事である。また、感覚が鈍くなっただけ、極度に刺激的なものしか受け入れなくなつた。

洛星の生徒は皆将来の目標がよく言われるんや。でも、それももちろん大事やけど、今、若い時なんやから今をもっと大事にして生きて下さい。

どうもありがとうございます。

校舎案内図

入学後一ヶ月半ほど過ぎたといえ、新入生諸君にはまだまだ校内に慣れない人が多いであろう。新入生特集の一環として校舎案内及び年間行事案内を作成した。



主な行事案内

文化祭
生徒会、文化祭企画委員達を中心に行われる年中行事の中で一番大きな行事。生徒全員参加の三日間に及ぶイベントだ。クラス単位で参加する合唱コンクールや、学年で参加する学年演劇や展示など様々なパートにわかれて行われる。毎年スローガンを掲げ、そのスローガンのもとに文化祭が行われている。生徒の積極的な参加によって毎年、成功のうちに終わっている。

体育祭
二百、四百、八百の徒競走などに加えて、「棒引き」や「大井川渡し」等、学年毎に特色のある種目が有り、見る者も楽しませてくれる。また、大きなデコレーションをバックに行われるクラス別の応援合戦やアトラクションは、学年を越えた結び付きを得る良い機会である。

創立記念日
三十数年前、わずかな人数から始まり、現在に至った事を再確認する行事。

球技大会
クラス単位で参加し、ソフトボール、ハンドボール、バスケットボール、バレーボールそれぞれにわかれ、競技を行う。この行事はクラスの団結力を更に強める行事だ。

追悼ミサ
毎年、十一月に行われ、学園関係の故人を追悼している。厳かなミサがとり行われる。

タブロー(降誕祭)
外部に対して有名な、我が校伝統の宗教的演劇の一種である。キリストの誕生を題材としており、その大きな特色はキャストが何れも、朗読と音楽のみで、ストーリーが展開する事だ。文化祭の学年演劇とは違い、中一から高二までの協力によって、タブロー劇は完成する。

新入生諸君へ!!

M2C 川口 周

M3C 鈴木 一弘

H3A 毛利 忠敦

河本 正昭(京大法)

榎本 太郎(京大理)

みなさんがどのような考えで洛星へ入ったのかは知りませんが、悪い学校だかという考えはまずないと思います。僕は、洛星が悪い学校といわれないのは、単に勉強ができるだけでなく、道徳や運動など全体にバランスがとれているからだと思います。ですから中学一年生の皆さん、いろいろな事を学び、よりよい洛星をつくりだしていきましょう。

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。桜が満開であった四月の入学式からはや一ヶ月余りたち、慣れてきた学校生活も楽しく感じられることでしょう。本校は中高一貫校ですが、他校の入学経験者も三年後の高校入試がありませう。ですから多くの学校行事やクラブ活動には思い切りうちこむことが出来ます。しかしそれらのことばかりに重点を置き過ぎると自分の勝手な理由をつけて勉学の方をおろそかにしてしまいがちです。クラブも行事も学校生活にとって重要な位置を占めています。自己に厳しく切り換えをきっちりして自分なりに努力し頑張りましょう。

洛星合格がわかった瞬間の感激をいつまでも忘れず毎日の学校生活を意義あるものにして下さい。

青春は、年をとるといふしは後悔の念を伴って回想されるものではないでしょうか。これは、青春時代には時の重みを感じる機会が殆どないもので、無駄に時間を過ごしてしまわぬようにしましょう。

さて、このたび新聞局の方から「新入生へのアドバイス」が書かれたので、この仰せ付けがありまして、この機会に一言お話ししたいと思います。勉強について、これは学生の本分ですから、とやかく言うことは出来ませんが、私達が青春に悔いを残さないとするならば、何事にも挑戦できる今、食欲などでの積極性が必要なのです。受け身の姿勢をとらず、価値ある思い出を自らの手で握り取り、人生の糧にせんとする積極性を持って下さい。

M3A 山口 真二

H2D 金森 弘志

H3F 児玉 忠泰

河本 正昭(京大法)

榎本 太郎(京大理)

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。入学の喜びに浸っている間もなく授業開始、しかもハードスケジュールで生徒手帳には細かい規則がいっぱい。しんどいですが、でも、こんな厳しさの中にも自由があるのです。春の遠足では、目的地に近いところで集合、解散。雨天の際は出席だけとって解散。また、演劇鑑賞では午前中、劇を見ない学年は、午後からだけ登校して劇の鑑賞。このように、学校から管理されない自由時間が与えられているのです。これは生徒ひとりひとりの人格が認められ、自主性が重んじられている証です。僕たちとともに、先生方の信頼を裏切ることなく、自由を満喫して、学園生活を楽しもうではありませんか。

高校新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。喜びで一杯のことでしょう。さて、洛星に入ってから一ヶ月、もう随分学園生活にも慣れたことだと思います。ここで皆さんに耳を傾けて欲しい事があります。何か一つ高校生活の大目標を立てて下さい。というのは、よくも悪いという感じがしますが、高一というのには本当にアツという間に過ぎて行ってしまうからです。

そしてその目標に向かって、勉強やクラブ、行事に励んで欲しいと思います。特にクラブや行事に多いに参加して下さい。僕も文化祭の演劇やタブローの聖歌隊に加わり、今ではいい思い出になっています。逆に何か行事に参加していないと張り合いがなくなってしまう。最後に演劇部をよろしく。

編入生の皆さん、御入学おめでとうございます。御入学から早や一ヶ月が経ち、そろそろ洛星での生活に慣れてきたことだと思います。私は今年洛星を卒業し、今も、洛星の近くにある我が家から毎日洛星の校舎を見ながら大学へ通っております。

さて、このたび新聞局の方から「新入生へのアドバイス」が書かれたので、この機会に一言お話ししたいと思います。勉強について、これは学生の本分ですから、とやかく言うことは出来ませんが、私達が青春に悔いを残さないとするならば、何事にも挑戦できる今、食欲などでの積極性が必要なのです。受け身の姿勢をとらず、価値ある思い出を自らの手で握り取り、人生の糧にせんとする積極性を持って下さい。

局 説

文化祭はどう変わる

高校生徒会が四月に成立した。(今さら言わなくても知っているはず)

そして、五月十日、高校生徒会において決算及び予算案が承認された。以前中學生徒会が承認されたが、なぜかそれは承認されなかった。それ以来中學生徒会において生徒の一部は承認していても意味がないと思われている。その上、去年は中學生徒会が中學生徒会を指導する生徒会が中學生徒会を指導する生徒会のイメージダウンにつながったと思う。

今年の三役は、例年通り文化祭を重くみている。この新聞に彼らの原稿を載せている。まず、文化祭No.1に載っていた文化祭委員会(以後文会)を一般公募という形で集め、従来の閉鎖的と言われていた形態の改善を計っている。

これを機会に文会の保守的姿勢が革新的姿勢に変化するのを期待してよいかもしれない。

去年は新企画が実現したが、今年はどうだろうか。以前から言われている前夜祭の設置、グラウンドの使用等、できないならできない理由を一通りの場で示すべきであろう。

去年の暮、文会によるアンケートが高一、中三の一部を対象に行われたが、その結果はどの様なものであったのだろうか。これもまた、文化祭等では知られるべきである。

文化祭とは、文化系クラブ、学年、及びクラスの発表の場であるばかりでなく、一年に一度行われる祭りとして楽しむ場ではないだろうか。現に、ベニヤ板に模造紙をベタベタ貼るだけ

卒業生訪問 ①



小田忠雄先生

現在多方面で活躍中の卒業生の方々にインタビューをする新企画。第一回は東北大学で数学を教える小田忠雄さんに御登場願いました。

随分やらされましたが、一方で空気が広がったおかげで自分達の花畑を持ち、毎日手入れる機会があったことなど、今となっては大変良い思い出です。

中学や高校の頃には予想だにしませんでしたが、現在、東北大学理学部で数学を研究したり教えるなどの毎日を送っています。大学入学の際自分が何に向いて

いたかあまり深く考えず工部部の電子工学科に入り、教養部から3年生への進級時に理学部数学科に転部しました。今振り返って大変幸運な選択であったと思っています。それと、なんとなくしやれた学校になりそうなきやれた学校に、簡単な筆記試験を受けた。昭和27年4月に中学第一期生として入学しました。有名校で入学試験が難しいという現在の洛星からは想像しにくいでしょう。入学当時たった唯一の校舎も1階と2階だけしか使えませんでした。4年半後の転校時にあった建物といえば、中学校舎と高校校舎とのふたつのみで、十字架のついた真中の建物すらありませんでした。写真で拝見しますと、年を追う毎にハード面ですばる整備され立派になったと感慨無量です。一方ソフト面で見ますと、在校当時は伝統と呼べるものももちろん何もない状態でした。しかし年を追って徐々に増えていく仲間と共に若々しい先生方のもとで大変充実した教育を受けた。今から考えますと先生方も手探りの状態でおられたことでしょう。今では全国的に名高い洛星にもそんな時代があったのです。草取りや整地作業も

や同級生諸君に会うことができました。霞ヶ関ビルの上階であった東京地区の第一回同窓会のことでした。第一期生もあと数年で50歳という時代になりました。卒業生の皆さん各界で御活躍の様子で、今後あらゆる面で洛星の卒業生に出会う機会がますます増えることでしょう。

東北大学のある仙台市は、大変遠いという印象をお持ちかもしれませんが、新幹線のおかげで京都から6時間弱で来れるようになりました。前田先生が1974年の夏仙台においでの際、洛星の卒業生が数名住んでおられることをうかがい御紹介頂きました。私自身も仙台にいたのは10年前の赴任時が初めてでしたが、30年前洛星にいた頃の京都の規模を持つ人間の大変な住みやすさ、機会があれば是非いじりておかけ下さい。

今年のお正月に本場に久しぶりに洛星時代の先生方と面談しました。在校生の諸君も、進路決定の際にはいろいろな情報を集めた上で本当に自分の肌に合った分野を選んで頂きたいと思っています。現在は流行している分野も大学卒業の頃には盛り過ぎていくかもしれません。

日本の中学や高校での数学が世界的に見て大変高いレベルにあることは御存じだと思いますが、研究面の数学に際しても日本は世界のリーダーの一つになりつつあります。程度の高い和算のよき伝統があったといえ、学問としての近代数学が日本に導入されたのはほんの100年前にすぎません。日本の数学者の数も一九六〇年代から急速に増え、今では会員数五〇〇〇人程になった日本数学会でも10名以上の洛星卒業生が活躍しておられます。

直接接の中に役立つことが少なそうな純粋科学も、その抽象性のゆえにかえって

校長先生御叙勲



勲四等瑞宝章を受賞されました。おめでとうございます。お気持ちですか。

思いがけない事で、驚きました。でもこれは私が一人でもらったのではなく、洛星の先生や先輩方の御協力のもとで、洛星の代表としていただいたものと思っています。

——どのような功績が認められたのですか。

校長を15年もしていると、いろいろな社会的な役

——社会的な役とは。

私学中高協会の会長や私学の校長会の理事などです。

——天皇陛下から直接手わたされたのですか。

一四六人もいますので代表の人がいただきました。

——陛下は何かおっしゃいましたか。

教育を通じて、日本の文化文明の発展をなすことができるので、今までの長い間の教育に対する苦勞に感謝し、これからも健康に気をつけてがんばって下さい、とおっしゃいました。

——お忙しい所どうもありがとうございました。

話のくずかご ⑦

狼の少年マンガ考 ②

前回とは違う分野の作品について話してみよう。

スポーツ物。これは、以前は熱血物と極めて近い関係にあった。即ち、努力と友情と正義である。主人公は苦しみ、汗と血を流しながら特訓や必殺技の開発に努め、トップにいる天才達を打ち負かさねばならなかった。ところが、最近はこの「真面目努力型」ではなく「才能成り上がり型」が増えて来たのだ。つまり、もともと天才的素質を持った人物が、大した苦勞もせず、運の良さや押しの強さで、あれよあれよと言う間に頂点に立つと言う様なパターンである。無論ある程度の練習はするし、多少は悩みもする。だが、それよりも寧ろ自分のカンとか発想の転換といったも

のに頼る方が多くなった。下種の勘ぐりかもしれないが、これもまた、世相の反映と見る事が出来るだろう。一生懸命にやる事は「ダサい」事で、「真剣勝負」なんて今時流行らない。そんな風潮が、若者の間に広がってはいないだろうか。適当に力を抜いて生きていきたいが、一番にもなりたいたい。そんな夢を満すために現れたのが、前述の「才能成り上がり型」である。型破りの天才児が謹厳実直な先輩・ライバル達を追い抜くというのには、確かにそんな若者達にとって愉快な事に違いない。しかし、現実にはそう巧いものか? 己の怠慢に対する一種の言い訳になっていないか。

——昔前からの人気を保っているのはラブコメだろう。

どの雑誌でも大抵一つや二つは載せている。変わった事と言えば、以前と比べて性的な感性的な面での解放が進んだ事。ヌードを描けば売れるから、とは言え、ヤング誌ならともかく、少年誌が意味もなくそういつたシーンを乱発するのは、あまり誉められた傾向とは言えない。

他に目立つのはSF物の増加である。「人類滅亡」とか「生物兵器」などを扱った純然たるSFから、未来や宇宙を背景に置いたり超能力等を小道具に使ったりしたものまで、SFの要素を含んだ漫画はどの誌を開いてもかなり多い。これも無意味にSF仕立てにすると言のでは、能がない。必ずしも公正とは言えないが、一応私の「漫画論」はこれで終わる。これから皆さんが漫画の現状を認識し、その上でそれを正しく評価して頂ければ、私としては大変嬉しく思う。

——お忙しい所どうもありがとうございました。

——お忙しい所どうもありがとうございました。

——お忙しい所どうもありがとうございました。

——お忙しい所どうもありがとうございました。

——お忙しい所どうもありがとうございました。

の展示が並ぶ校舎内の沈み様と模範店の立ち並ぶ中庭の盛りあがりとは、大きな違いがある。やはり、生徒も一般客も楽しめる企画を増やした方がよいであろう。

要するに、他校の様にバラエティに富んだ文化祭の方がよいのではないかと、というのである。

生徒の中には、文会でなければ文化祭に参加しないと考えている人もいる。文化祭に参加できる理由を一通りの場で示すべきであろう。

去年の暮、文会によるアンケートが高一、中三の一部を対象に行われたが、その結果はどの様なものであったのだろうか。これもまた、文化祭等では知られるべきである。

文化祭とは、文化系クラブ、学年、及びクラスの発表の場であるばかりでなく、一年に一度行われる祭りとして楽しむ場ではないだろうか。現に、ベニヤ板に模造紙をベタベタ貼るだけ

文化祭とは、文化系クラブ、学年、及びクラスの発表の場であるばかりでなく、一年に一度行われる祭りとして楽しむ場ではないだろうか。現に、ベニヤ板に模造紙をベタベタ貼るだけ

文化祭とは、文化系クラブ、学年、及びクラスの発表の場であるばかりでなく、一年に一度行われる祭りとして楽しむ場ではないだろうか。現に、ベニヤ板に模造紙をベタベタ貼るだけ

文化祭とは、文化系クラブ、学年、及びクラスの発表の場であるばかりでなく、一年に一度行われる祭りとして楽しむ場ではないだろうか。現に、ベニヤ板に模造紙をベタベタ貼るだけ

文化祭とは、文化系クラブ、学年、及びクラスの発表の場であるばかりでなく、一年に一度行われる祭りとして楽しむ場ではないだろうか。現に、ベニヤ板に模造紙をベタベタ貼るだけ

文化祭とは、文化系クラブ、学年、及びクラスの発表の場であるばかりでなく、一年に一度行われる祭りとして楽しむ場ではないだろうか。現に、ベニヤ板に模造紙をベタベタ貼るだけ

61年度 入試結果

現・浪・健闘す!!

京大、大台突破!!

京大 104・東大 28

[illegible]

ある日の雄惑

—週番日誌より

ある日の雑感

——週番日誌より

▽幼稚園の頃、よく「パロムワン」を見たものだ。ケンタロウとタケシという名前の小さな男の子（当時、自分にとつては年上の奴らのように見えたものだが……）が主人公で、ケンタロウという奴はスマートだったものの、タケシという奴は太っていた。同じ名前であつた私は、そんなデブと同じ名前であることを恥じて、よく母に、

「なんでケンタロウっていう名前にせんとタケシにしたんや、ノ」と怒つたものだ。そんな時、母や父は子供の心をからかして、

「ケンタロウにするかタケシにするか悩んだけど、結局タケシにしたんや」とみえみえの嘘を言つて、私をくやしがらせたものです。ところで、その「パロムワン」という番組は、二

▽前期生徒会の顔ぶれ△



会 長 中 井 亨

前期高校生徒会というのは、最近、文化祭という大きな行事の準備機関の性格を濃くして、又その文化祭も年々お祭りの要素が増大し、それにもないマンネリ化が感じられるようになって来ています。その打破のため先頃発行した文化祭報での企画委員の公募を行いました。多数のご応募大変ありがとうございました。今回応募しなかった人でも文化祭についての意見がある人はどんどん申し出て下されば取り入れていきたいと思っています。文化祭だけでなく、他の様々な行事などにも全力を傾けますのでよろしく願います



副会長 金多 隆

今回、生徒会の大役を買ってでしたが、文化祭や体育祭といった大きな行事を控える前期では特に、全校と執行部との足並みがそろうことが大切で、それが行事の成否を示すものと思っています。三十クラス体制も二年目に入り、バラエティに富んだ画期的な文化祭、体育祭を展開するため、新企画その他の方皆さんの御参加、御協力をお待ちしています。執行部もがんばります。何か問題がありましたら、お気軽にどうぞ。



書記長 松尾宏一

生徒会の書記長というと偉そうに聞こえ、近よりがたいように思われるかも知れません。しかし、この書記長という役のもつ可能性を生かし、三役が協力しながら、より開かれた生徒会にしていきたいと思えます。特に、前期最大の行事である文化祭では、執行部を主体とする文化祭企画委員会が中心となるわけですが、多様化する形態の中で、より計画的に、そしてより各団体の自主性を尊重することを目標にしたいと思います。毎年変わらなと言われている文化祭ですが、少しずつでも変えるために努力します。

人の少年が腕を組み合わせるのと、友情パワーでバロムワンに変身する。変身したバロムワンは当然、中に大人が入って動いているのだが、純粹な心の私は、タケシがケンタロウを肩車してやって、バロムワンの中に入っているのだと思っていた。いやー純粹。純粹と言えば、ガキの頃は、テレビのコマーシャルはすべて生放送だと思っていた。だからいつも同じようにコマーシャルに出てくる人物を、えらい奴だなあと感心していた。

昨日は、国会で桑田の問題が議論されたらしい。これは昭和53年の江川問題以来のことらしいが、ドラフトの問題を国会で討議することになんの意味があるのだろう。最近、日本は軍事拡大、民衆抑圧傾向にあるのではないだろうか？ やたらと条例や法律が増えて「そんなもん、個人の意志にまかせたらどうだ！」

と言いたくなるようなものまで規制している。おまけに、最近やたらとせこい犯罪を挙げてやろうと張り込んでいる。ある刑事の話によると、「逮捕というのは、犯罪が起きてからするものではなく、犯罪を起こさせてするもの」なのだそうです。

▼この前、久々に銭湯に行った。考えてみると、銭湯に行くといつも妙なおっさんが必ずいる。たとえば、桶の湯を両手で流すおっさん、いつも番台のおばさんに「おばさん2本！」と言つてNCAAを冷やしてもらう奴など。只今日本は平和である。

久しぶりにわりといい店に夕食を食べに行った。そこにおもしろいおじさんがいて、肉の焼き方という問いに、「一生けんめい焼いて下さい」と答えていた。

旧HⅢBより

局員及び投稿募集!!

A 森川 H II B 桑山
 C 岸本 C 白藤
 D 伊藤 H I E 津田

までお気軽にお知らせ下さい。

編集後記

うか。ひたすらもがき続けている。みじめだなあ。今号は発行が遅れました。新入生のみなさん、捨てないで下さいね。ともかく、次号は頑張りたいと思っています。

つになることや、年四回
の目標はどんどん遠ざかっ
ていって見えなくなりがか
っている。

新人が入ってこないウチ
は弱小化が進むのであった。

（局長も）

▽今号は校舎案内、卒業生
訪問等の新企画を加え、め

▽英国皇太子夫妻の警護の
ためか、京都市内の警察無
線が一斉にデジタル化して
しまった。それも今までの
回線からは一切音声の出な
い完全デジタル化。警察が
今までのリスナーに向かっ
てざまあみろと言っている

（ギャモン）

【註】

〔ふあるこ〕

スタッフ

顧問	英語科	藤田	先生
	HIE	津田	憲言
	HID	伊藤	剛
	HIC	白藤	拓己
局員	HIC	岸本	克樹
局長	HIA	森川	洋
編集長	HIB	桑山	由文